

## MOOCs がもたらすボーダレスな教育と社会

重田勝介

北海道大学 情報基盤センター

### 〔アブストラクト〕

情報通信技術の発達やインターネットの普及に伴い、大学など高等教育機関の垣根を超えた学習環境が現れつつある。多くの大学では e ラーニングのような学生に向けた教育にとどまらず、オープンコースウェア(OCW)やオープン教材(OER)と呼ばれるインターネット上で無料公開される教材の提供や、MOOCs(Massive Open Online Courses)と呼ばれる、無料で大学レベルの教育を受けられるオープンなオンライン教育を推進している。大学や企業、個人が多様な形で教育に携わる「オープンエデュケーション」の活動が世界規模で広がっている。

MOOCs は教育機関の枠を超え、誰しものが教育へ主体的に関わる社会インフラとなり得る。高等教育が抱える課題や社会変化を踏まえ、未来の社会に「ボーダレスな教育」をもたらすオンライン教育の可能性と課題について議論する。

### 〔キーワード〕

オープンエデュケーション, オンライン教育, MOOCs, 高等教育

### 1. はじめに

MOOCs とは Massive(ly) Open Online Courses の略で「大規模公開オンライン講座」と訳される。MOOCs はインターネット上でオンライン講座を開設し、受講者を広く集めて講義を行う取り組みである。2013 年現在、Coursera や Udacity、edX など米国を中心とした様々な MOOCs プロバイダやコンソーシアムが、全世界へ向けてオンライン講座を開講している。

MOOCs は 2010 年頃を境に急激にインターネット上の学習環境として注目を集めるようになった。しかし MOOCs は突如立ち現れた「発明」ではなく、それ以前に数十年来取り組まれてきた教育におけるテクノロジー利活用の延長線上にある「進化」として捉えることができる。

MOOCs はここ 10 年来継続してきたオープンエデュケーションの活動の延長線上にあると考えられる。大学レベルの教育を大規模にオンラインで実施する講座は“xMOOCs”とも呼ばれる。特に xMOOCs のような MOOCs は、オープンエデュケーションの活動で培った知恵と蓄積を活かしつつ、インターネット上でオンライン講座を開講することで、大学やプロバイダがオープンな教育サービスを提供する取り組みだといえる。

MOOCs は教育機関の枠を越え、全世界にあまねく高等教育の機会を提供する可能性を持つが、活動の持続性に関して懸念が持たれる。現状では MOOCs プロバイダの活動は主にベンチャーキャピタルからの出資に頼っており、活動を継続するためにはビジネスモデルの構築が早急に望まれる。edX のような大学コンソーシアムによる MOOCs では、MOOCs の開講が大学の広報や優秀な学生の確保につながることを示すことが、大学が MOOCs 公開を継続する鍵になると考えられる。

MOOCs を開講する主体は教育機関に限らない。企業や個人も MOOCs を開設することが可能であり、例えば MOOCs を企業内研修やオンライン・インターンのような形で、企業内教育や優秀な社員の雇用のために用いることも可能である。今後、オンライン教育による学習環境は、教育機関の枠を越えて教育を行う社会インフラとなり、さまざまな企業や個人が、教育により主体的に関わる社会へと変わってゆくことが期待される。

#### 〔参考文献〕

重田勝介(2013) MOOCs の現状と課題. 大阪大学サイバーメディア・フォーラム (印刷中)